

# 「九州を支える広域防災拠点構想」の見直し(案)について

## 1 九州を支える広域防災拠点構想について

- ・南海トラフ地震など広域的な大規模災害発生に備え、平成26年1月に構想を策定。
- ・構想策定後、ハード・ソフト両面から取組みを進め、防災拠点としての機能及び対応力が向上。
- ・さらに、構想に加え、熊本地震や7月豪雨という大規模災害を経験し、災害対応のノウハウを蓄積。
- ・一方で、頻発・激甚化する災害や、新型コロナウイルス感染症などの新たなリスクも高まっている。
- ・これまでの取組みにより高まったポテンシャル、熊本地震や7月豪雨などの災害対応の経験を踏まえ、あらためて九州を支える広域防災拠点としての役割・機能を見つめなおし、拠点機能の強化に取り組む。

## 3 これまでの取組(成果)

- ・これまでの取組みにより、防災拠点としての機能及び対応力が向上
- ・構想に位置付けた取組みは概ね完了

機能	取組方針及び主な取組成果	進捗
① 合同現地対策本部機能	合同現地対策本部(司令塔機能)を熊本県へ誘致 →国は、南海トラフ地震時の九州における政府の現地対策本部に「熊本地方合同庁舎B棟」を選定 →県防災センターの機能拡充と新たな県防災センターの整備(R5.3)	完了
② 防災拠点機能を活かす立地性・低リスク性	九州の横軸をはじめとした高速交通基盤整備を加速化 →国において九州中央自動車道、中九州横断道路の一部区間の開通	一部完了
③ 情報収集機能	ヘリコプターを活用した情報収集体制の充実・強化 →ヘリ運用拠点施設(県総合防災航空センター)を整備 →阿蘇くまもと空港隣接地に防災駐機場を整備	完了
④ 支援物資の集積拠点機能	支援・救援物資の迅速な受入れ・仕分け・搬送の機能強化のため、集積拠点となる県産業展示場を中心とした整備 →国の計画で大規模な広域防災拠点として阿蘇くまもと空港を選定 →県産業展示場の耐震性向上、大型ヘリポートの整備	完了
⑤ 広域支援部隊等の集結・活動拠点機能	支援部隊の一時集結・活動拠点施設の機能強化のため、阿蘇くまもと空港や県民総合運動公園等を整備 →県民総合運動公園に耐震性貯水槽・防災トイレを整備 →消防学校に非常用発電設備等を整備	完了
⑥ 災害医療支援機能	広域医療搬送拠点や災害医療提供体制等の充実・強化 →阿蘇くまもと空港隣接地へSCU適地を選定、SCU資機材の整備 →国、九州の行政関係者等による災害時医療救護活動訓練の実施	一部完了
⑦ 水・食料・医薬品等の備蓄・供給機能	水・食料・医薬品等の供給体制の充実・強化 →災害時の物資受入・緊急輸送に係る協定を民間事業者と締結 →県内物資の保有数、提供可能量に関する調査の実施	一部完了

大規模災害対応の経験を生かし、更なるステップ

## 2 熊本の防災拠点としての優位性

- ・九州の中央に位置する
- ・防災拠点としての指令機能を有している
- ・災害時の医療拠点としての機能を有している
- ・迅速に水や食料などを供給する能力を有している
- ・各防災拠点が災害リスクの低い市街地の外縁部かつ内陸部に立地
- ・災害に強く、即応能力を有している阿蘇くまもと空港を整備
- ・熊本地震、令和2年7月豪雨と2度の大きな災害経験により蓄積したノウハウ



【阿蘇くまもと空港完成図】

## 4 新たな取組方針及び主な対策

＜構想の見直しにあたっての3つの視点＞

- 地理的優位性を活かす、○既存施設の有効活用・関係機関との連携、○支援体制の強化

機能	取組方針及び主な対策
① 合同現地対策本部機能	<b>国の現地対策本部(熊本地方合同庁舎B棟)との連携強化</b> ・国や被災県との防災訓練による災害対応のスキルアップ ・国の「現地対策本部」と県の「新防災センター」とが連携した災害対応に向けた運用の検討
② 九州各県へのアクセス機能	九州の横軸をはじめとした高速交通基盤整備を加速化 ・九州中央自動車道、中九州横断道路の整備促進等を国へ要望 ・南九州西回り自動車道、有明海沿岸道路等の整備を促進
③ 情報収集機能	ヘリコプター等を活用した情報収集体制の充実・強化 ・ヘリ燃料保管施設等の確保に向けた検討 ・ドローンの整備・活用に向けた国や九州各県との連携
④ 支援物資の集積拠点機能	支援・救援物資の迅速な受入れ・仕分け・搬送の機能強化のため、 <b>集積拠点の更なる拡充</b> ・物資集積拠点候補施設の追加指定と物資管理体制の検討 ・熊本港、八代港の岸壁整備や熊本港のふ頭拡充など防災拠点としての機能強化
⑤ 広域支援部隊等の集結・活動拠点機能	支援部隊の <b>一時集結・活動拠点施設の拡充</b> 及び機能強化 ・支援部隊の集結に備えた消防学校施設等の整備 ・阿蘇くまもと空港と高遊原分屯地の一体的活用に向けた連絡通路の整備や分屯地駐機場の強化を国へ要望
⑥ 災害医療支援機能	広域医療搬送拠点や災害医療提供体制等の充実・強化 ・災害医療提供体制整備に向けた他県や関係機関との連携 ・災害発生時に即応できる「SCU運営マニュアル」の作成
⑦ 水・食料・医薬品等の備蓄・供給機能	水・食料・医薬品等の供給体制の充実・強化 ・支援物資供給体制構築等に向けた検討及び民間との連携拡大 ・阿蘇くまもと空港への救援物資保管施設等の確保

## ⑧ 避難者受入機能

### 九州各県からの避難者の受入体制の整備

- ・南海トラフ地震を想定した避難者移送体制構築の検討
- ・ホテル等の避難者受入施設の確保
- ・官民の連携した避難者受入のあり方の検討

## ⑨ 災害対応ノウハウ等の提供・発信機能

### 熊本地震及び令和2年7月豪雨災害の経験や教訓、災害対応のノウハウなどを国内外に提供・発信

- ・災害発生時、職員の派遣等を通じて災害対応ノウハウを提供
- ・新防災センターと旧東海大学阿蘇キャンパスの2つの拠点を中心とした災害の教訓・ノウハウの発信(コロナ禍における対応含む)



【新防災センター完成図】



【合同現地対策本部】



【防災駐機場】

- 2つの大きな災害を経験
- 頻発・激甚化する災害
- コロナ禍における災害対応

新規



# 九州を支える広域防災拠点イメージ (案)

## 総合調整を行う指令拠点

- 合同現地対策本部機能
- 情報収集機能
- 災害対応ノウハウの提供・発信機能

- ・国の現地対策本部設置 (熊本地方合同庁舎B棟)
- ・新防災センター整備 (R5.3完成予定)

### ⇒国の現地対策本部との連携強化

- ・国、県施設が連携した災害対応に向けた運用の検討
- ・国、西部方面総監部、九州各県等との訓練
- ・熊本地震、令和2年7月豪雨で蓄積した災害対応ノウハウの提供・発信



【熊本地方合同庁舎B棟】



【新防災センター完成図】

## 「すべての道は熊本に通じる」

～九州の中央熊本からつながる高速交通基盤～

- 九州各県へのアクセス機能

- ・九州中央自動車道の整備 (一部区間開通)
- ・中九州横断道路の整備 (一部区間開通) 等

### ⇒九州の横軸の更なる強化

- ・九州中央自動車道、中九州横断道路の整備促進等を国へ要望
- ・南九州西回り自動車道、有明海沿岸道路等の整備促進

- ・広域応援部隊等の迅速かつ円滑な移動
- ・大量かつ安定的な物資輸送
- ・広域避難者の速やかな移送



【九州中央自動車道(山都中島西IC)】  
(写真提供: 国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所)

## 支援部隊・支援物資等の集結拠点

- 支援部隊等の集結・活動拠点機能
- 支援物資の集積拠点機能
- 水・食料・医薬品等の備蓄・供給機能

- ・総合防災航空センター、防災駐機場整備
- ・阿蘇くまもと空港、県産業展示場、八代港が国計画で集結拠点に位置付け
- ・県消防学校、県民総合運動公園、熊本港等が県計画で集結拠点に位置付け

### ⇒拠点施設の充実・強化

- ・消防学校施設等の支援部隊活動拠点としての整備
- ・岸壁整備(熊本港、八代港)、ふ頭拡充(熊本港)による支援物資集積拠点としての機能強化



【防災駐機場】



【県産業展示場】

## 災害医療支援拠点

- 災害医療支援機能

- ・阿蘇くまもと空港が国計画で広域医療搬送を行う航空搬送拠点に位置付け
- ・崇城大学空港キャンパスとの施設利用協定の締結 等

### ⇒広域医療搬送拠点等の充実・強化

- ・他県や関係機関と連携した災害医療提供体制整備



【阿蘇くまもと空港】



## 避難者受入拠点

- 避難者受入機能

- ・九州各県からの避難者の受入体制の整備

